

1

問題のページへ

(1)  $PA : PB = 1 : k$  より,  $PB^2 = k^2 PA^2$

$$(x - \cos \theta)^2 + (y - \sin \theta)^2 = k^2 \{ x^2 + (y - 1)^2 \}$$

まとめて,  $x^2 + y^2 + \frac{2 \cos \theta}{k^2 - 1} x + \frac{2(\sin \theta - k^2)}{k^2 - 1} y + 1 = 0$

$$\left( x + \frac{\cos \theta}{k^2 - 1} \right)^2 + \left( y + \frac{\sin \theta - k^2}{k^2 - 1} \right)^2 = \frac{2k^2(1 - \sin \theta)}{(k^2 - 1)^2}$$

よって,  $(X, Y) = \left( -\frac{\cos \theta}{k^2 - 1}, -\frac{\sin \theta - k^2}{k^2 - 1} \right), r = \frac{\sqrt{2k^2(1 - \sin \theta)}}{|k^2 - 1|}$

(2) (1)より,  $X = -\frac{\cos \theta}{k^2 - 1} \dots\dots\dots$ ,  $Y = -\frac{\sin \theta - k^2}{k^2 - 1} \dots\dots\dots$

より,  $0 < \theta < \frac{\pi}{6}$  なので  $X \neq 0$  から,  $k^2 = 1 - \frac{\cos \theta}{X} \dots\dots\dots$

より,  $Y(k^2 - 1) = -(\sin \theta - k^2)$

を代入して,  $Y \cdot \left( -\frac{\cos \theta}{X} \right) = -\sin \theta + \left( 1 - \frac{\cos \theta}{X} \right)$

$$Y = \frac{\sin \theta - 1}{\cos \theta} X + 1 \dots\dots\dots$$

ただし,  $k > 0$  なので, から  $1 - \frac{\cos \theta}{X} > 0$

$$\frac{X - \cos \theta}{X} > 0, \cos \theta > 0 \text{ から, } X < 0, \cos \theta < X$$

また,  $\frac{\cos \theta}{X} \neq 0$  から,  $k \neq 1$  は成立する。

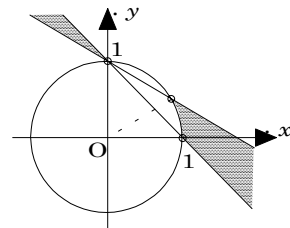
よって点  $(X, Y)$  の軌跡は, 2本の半直線  $y = \frac{\sin \theta - 1}{\cos \theta} x + 1 (x < 0, \cos \theta < x)$

(3) は 2点  $(0, 1), (\cos \theta, \sin \theta)$  を通る直線で,

$X < 0, \cos \theta < X$  から,  $0 < \theta < \frac{\pi}{6}$  に考慮すると,

求める  $(X, Y)$  の存在する領域は, 右図のよう

になる。ただし, 円周上以外の境界線は含む。



[ 解 説 ]

(3)の存在領域を求めるのに, (2)が適切な誘導となっています。直線 が 2点  $A(0, 1), B(\cos \theta, \sin \theta)$  をつねに通るということを発見するのがポイントです。

2

問題のページへ

(1) 数学的帰納法を用いて証明する。

(i)  $n = 1$  のときは、明らかに成立する。

(ii)  $n = k$  のとき、成立を仮定して、

$$\begin{aligned} A^{k+1} &= A^k A = \begin{pmatrix} 2^k & 3^k - 2^k \\ 0 & 3^k \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2^{k+1} & 2^k + 3^{k+1} - 3 \cdot 2^k \\ 0 & 3^{k+1} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^{k+1} & 3^{k+1} - 2^{k+1} \\ 0 & 3^{k+1} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

(i)(ii)より、 $n = 1$  で題意は成立する。

(2)  $\begin{pmatrix} x_n \\ y_n \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^n & 3^n - 2^n \\ 0 & 3^n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2^n x + (3^n - 2^n)y \\ 3^n y \end{pmatrix}$  から、

$$x_n - x = (2^n - 1)x + (3^n - 2^n)y \dots\dots\dots, \quad y_n - y = (3^n - 1)y \dots\dots\dots$$

まず、 $y_n - y$  が整数で  $0 < y < 1$  なので、 から  $y$  のとりうる値は、

$$y = 0, \frac{1}{3^n - 1}, \frac{2}{3^n - 1}, \dots\dots\dots, \frac{3^n - 2}{3^n - 1}$$

$$y = \frac{k}{3^n - 1} \quad (k \text{ は } 0 \text{ 以上, } 3^n - 2 \text{ 以下の整数}) \dots\dots\dots$$

また、 を変形して、 $x_n - x = (2^n - 1)(x - y) + (3^n - 1)y$

$x_n - x$ ,  $y_n - y$  が整数より、 $(2^n - 1)(x - y)$  が整数となる。

$0 < x < 1$ ,  $0 < y < 1$  なので、 $-1 < x - y < 1$  となり、

$$x - y = -\frac{2^n - 2}{2^n - 1}, -\frac{2^n - 3}{2^n - 1}, \dots\dots\dots, -\frac{1}{2^n - 1}, 0, \frac{1}{2^n - 1}, \dots\dots\dots, \frac{2^n - 2}{2^n - 1}$$

$$y = x + \frac{l}{2^n - 1} \quad (l \text{ は } -(2^n - 2) \text{ 以上, } 2^n - 2 \text{ 以下の整数}) \dots\dots\dots$$

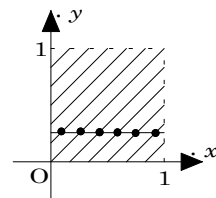
以上より、求める  $(x, y)$  は、直線 と の交点となる。

$k$  の値を固定して考えると、 $0 < x < 1$ ,  $0 < y < 1$  で、

直線 は、直線  $y = x$  と 1 つの交点をもち、2 直線

$$y = x + \frac{-m}{2^n - 1}, \quad y = x + \frac{2^n - 1 - m}{2^n - 1} \quad (1 \leq m \leq 2^n - 2)$$

のいずれか一方と交点をもつ。すなわち、 $2^n - 1$  個の交点をもつことになる。



異なる  $k$  の値は  $3^n - 1$  個あるので、 $(x, y)$  の個数は  $(2^n - 1)(3^n - 1)$  となる。

[ 解 説 ]

(2)が本年度、金沢大の最難問です。 $(x, y)$  の個数を求める際に、頭が混乱します。

上の解のように図を書けば、思考が整理できます。

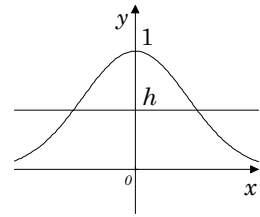
3

問題のページへ

(1)  $y = e^{-x^2}$  より,  $x^2 = -\log y$

$$V(h) = \pi \int_h^1 (-\log y) dy = -\pi [y \log y - y]_h^1$$

$$= \pi(h \log h + 1 - h)$$

(2)  $n \geq 2$  のとき, 数学的帰納法を用いて証明する。

(i)  $n = 2$  のとき,  $2^2 > \frac{2 \cdot 3}{2}$  より成立。

(ii)  $n = k$  のとき,  $2^k > \frac{k(k+1)}{2}$  と成立を仮定する。

両辺  $\times 2$  より,  $2^{k+1} > k(k+1)$

ここで,  $k(k+1) - \frac{(k+1)(k+2)}{2} = \frac{(k+1)(2k - k - 2)}{2} = \frac{(k+1)(k-2)}{2} \geq 0$

よって,  $2^{k+1} > \frac{(k+1)(k+2)}{2}$

(i)(ii)より,  $n \geq 2$  のとき,  $2^n > \frac{n(n+1)}{2}$

なお,  $n = 1$  のときは,  $2^1 > \frac{1 \cdot 2}{2}$  より成立。

以上より,  $n \geq 1$  で,  $2^n > \frac{n(n+1)}{2}$

(3)  $V(2^{-n}) = \pi(2^{-n} \log 2^{-n} + 1 - 2^{-n}) = \pi\left(-\frac{n \log 2}{2^n} + 1 - \frac{1}{2^n}\right)$

(2)より,  $0 < \frac{1}{2^n} < \frac{2}{n(n+1)}$  なので,  $0 < \frac{n \log 2}{2^n} < \frac{2n \log 2}{n(n+1)} = \frac{2 \log 2}{n+1}$

よって,  $n \rightarrow \infty$  のとき,  $\frac{n \log 2}{2^n} \rightarrow 0$

以上より,  $\lim_{n \rightarrow \infty} V(2^{-n}) = \pi$

## [ 解 説 ]

微積分についての基本題で, 完答が望まれる問題です。なお, (2)は二項定理を用いても証明することができます。

4

問題のページへ

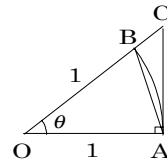
- (1)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき, 右下図より  $OAB < \text{扇形 } OAB < OAC$

$$\frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \cdot \sin \theta < \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \theta < \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \tan \theta$$

$$\sin \theta < \theta < \tan \theta$$

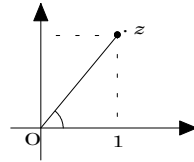
$\theta = 0$  のときは,  $\sin \theta = \theta = \tan \theta = 0$

よって,  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき,  $\sin \theta < \theta < \tan \theta$



- (2)  $x > 0, n \geq 1$  より,  $0 < \theta_n < \frac{\pi}{2}$

$$\tan \theta_n = \frac{x}{n}, \quad \sin \theta_n = \frac{\frac{x}{n}}{\sqrt{1 + \frac{x^2}{n^2}}}$$



(1)から,  $\frac{\frac{x}{n}}{\sqrt{1 + \frac{x^2}{n^2}}} < \theta_n < \frac{x}{n}$  なので,  $\frac{x}{\sqrt{1 + \frac{x^2}{n^2}}} < n\theta_n < x$

よって,  $\lim_{n \rightarrow \infty} n\theta_n = x$

- (3)  $z$  は極形式で  $z = \sqrt{1 + \frac{x^2}{n^2}} (\cos \theta_n + i \sin \theta_n)$  と書けるので,  $z^n$  の実部  $a_n$  は,

ド・モアブルの定理から,

$$a_n = \left( \sqrt{1 + \frac{x^2}{n^2}} \right)^n \cos n\theta_n = \left( 1 + \frac{x^2}{n^2} \right)^{\frac{n}{2}} \cos n\theta_n = \left\{ \left( 1 + \frac{x^2}{n^2} \right)^{\frac{n^2}{x^2}} \right\}^{\frac{x^2}{2n}} \cos n\theta_n$$

(2)より,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = e^0 \cos x = \cos x$

### [ 解 説 ]

(1)で  $f(\theta) = \theta - \sin \theta$ ,  $g(\theta) = \tan \theta - \theta$  とおき, 微分して単調増加を示すという方法は好ましくありません。というのも, 高校数学の普通の立場では, この証明すべき不等式をもとにして, 三角関数の微分の公式を導いているからです。そのため上のような解の方が望ましいと考えられます。ちょっと疑問の残る出題です。